

注意報

奈 植 防 第 7号
平成26年8月25日

関係機関長 殿
病虫害防除員 殿
調査員・情報員 殿
農業資材販売等関係者 殿

奈良県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報の送付について

このことについて、以下の通り発表しました。適正・安全な防除について御指導をお願いします。

平成26年度病虫害発生予察注意報第2号

病虫害名 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ・ツヤアオカメムシ)
作物名 カキ・ナシ・ブドウ・ミカン

1. 発生地域 県下全域
2. 発生時期 8月下旬～10月中旬
3. 発生程度 多い

4. 注意報発表の根拠

- (1) 予察水銀灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数は、各調査地点で多い状態が続いており、果樹・薬草研究センターの8月中旬の誘殺数は1,729頭と非常に多くなっています。また、チャバネアオカメムシだけでなく、ツヤアオカメムシやクサギカメムシの誘殺数も多くなっています。
- (2) 8月下旬の巡回調査において、ヒノキ樹のカメムシ成虫数および幼虫数は3.4頭/地点、0.7頭/地点と多くなっています。
- (3) 県内カキ35園地のカメムシ被害状況を調査したところ、平均被害果率は8.0%で約2割の園地で10%以上の果実被害が認められました。御所市および下市町で被害が目立っています。
- (4) ヒノキ球果の口針鞘数(カメムシの吸汁痕)は県内8地点の平均で15.2と、前回調査時(7/25:6.4)から大きく増加しています。

5. 防除上の注意事項

- (1) カメムシの飛来は地域差、園地間差が大きいため、こまめに園地を見回り、新しい被害やカメムシを確認した場合は直ちに防除を行います。
- (2) 台風通過後には突発的な飛来がみられる場合がありますので、安全が確認された後園地を見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除します。
- (3) カキでは、早生品種の収穫中に「富有」が被害に遭う事例が目立ちます。多忙な時期ですが、園地の観察を欠かさず早期発見に努めます。
- (4) ナシでは、有袋栽培でも袋と果実の密着面から容易に吸汁が可能ですので、十分注意します。
- (5) 農薬使用前にはラベルをよく読み、記載された使用条件を遵守します。また、薬液が隣接する農作物に飛散しないように十分注意します。

表 カメムシ類の主な防除薬剤

	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ナシ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫3日前まで	2回以内	ネオニコチノイド剤
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
	アディオン乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	合成ピレスロイド剤
	アーデント水和剤	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
カキ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アグロスリン水和剤	1000～2000倍	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
	MR.ジョーカー水和剤	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	合成ピレスロイド剤
	キラップフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	フェニルピラゾール系
ブドウ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
カンキツ	アルバリン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アドマイヤー顆粒水和剤	5000～10000倍	収穫14日前まで	3回以内	ネオニコチノイド剤
	アグロスリン水和剤	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	合成ピレスロイド剤
	テルスターフロアブル	3000～6000倍	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド剤

注)登録内容はH.26.8時点のものです。農業使用前にはラベルをよく読み、記載された使用条件を遵守して下さい。